

あつし塾長の

子のやる気 親の気づき

〇〇30



第2章・ゆとり教育世代の子育て

今年も、ゆとり教育世代の子どもたちは、夏休みの宿題に泣いていました。しかし、私たち親の世代から見れば、泣くほどの学習量でも難しさでもありません。しかも学校によっては図画もない、習字もない、自由研究もない、あるのは5教科

両立

のワークだけという時代です。読書はさせても感想文の提出は自由だったり、作曲の宿題も音符が苦手なら詩を讀んで絵で表しても良かったりです。それでも子どもたちは「つらい」と言うのです。

つらさ乗り越える力を

どれも懸命に取り組んで

く返事を待ちました。「……」。涙で声になりません。「寝ないで練習したのか？」と極端なことを言ってみたら「少し寝ました」とやっとなで答え、また涙。「少して、何時に寝た？」「12時……」。「それで何時に起きたの？」。しばらくして「7時……」と。「えっ、7時間も寝ているじゃないか!」と思わず大きな声になり「それは、少し悩んで寝ました」と言うべきではないかと話したら「はよ!」と話して涙をすすりながら答えていました。

今年、特にお盆を過ぎたころから、受験勉強真つただ中である「ほーっとしてしまいたい」。「やらぬ理由、先送りの理由として「そうさせられた自分がいだ!」という外的な原因ばかりを平気で並べます。

近年、危機感を感じない、夢を持っていない、悲しい表情をする子どもたちが増えてきて、私たちの学習意欲が気になっているご家庭も少なくありません。

しかし、無理をさせてはかわいそうだという考えから、大人の力で目の前の複雑な問題を単純にしてあげてしまおうのです。社会に出れば、すぐには解決できないような事情がいろいろ絡み合っていることばかりに直面します。我慢や辛抱、それを超える工夫を身につけるためにも、勉強も部活も友情も恋も「両立」するものだと伝え、子どもには「どちらかではなく、どちらも」がむしゃらに取り組んでほしいと思います。



by yoriko

きないような事情がいろいろ絡み合っていることばかりに直面します。我慢や辛抱、それを超える工夫を身につけるためにも、勉強も部活も友情も恋も「両立」するものだと伝え、子どもには「どちらかではなく、どちらも」がむしゃらに取り組んでほしいと思います。

(畑山篤志学塾塾長)

東京3弁護士会、「子どもの貧困」電話相談

貧困児童の電話相談、子どもの貧困、生活費、教育費ホットライン

子どもの貧困 生活費・教育費ホットライン
電話番号 0120-419-783
2010年9月23日(水) 午前10時～午後4時

ニュース なぜなに

教育

BPが破れ、大量の油が海の中に広がりました。BPはいろいろな方法で流出をおさえようとしてきましたが、うまくいきません。7月になって、海底の油が上がってくる部分に、大きな重いふたをのせると、流出はようやく

